

日交研シリーズ A-654

平成 26 年度自主研究プロジェクト

子育て世帯の生活の質向上に資する都市・交通施策に関する研究

刊行：2016 年 5 月

子育て世帯の生活の質向上に資する都市・交通施策に関する研究

Urban and Transport Policy Measures Increasing Quality of Life of Child-Rearing Households

主査 大森宣暁 (宇都宮大学教授)

Nobuaki OHMORI

要 旨

少子高齢社会に直面している我が国において、子育て世帯の社会参加を支援し、少子化に歯止めをかけるためにも、妊婦、乳幼児・児童を持つ子育て中の親および子どもが、安全・安心・快適に外出活動に参加し、多様なライフスタイルを選択できる環境を整備することが重要である。そのためには、「子供連れで外出活動に参加しやすい環境」と「子供を連れずに外出活動に参加しやすい環境」の両者を備えた都市構造および交通システムの実現と、国、地方自治体、民間事業者、NPO 等、職場、子育て世帯、その他の世帯など、多様な主体が適切に連携および役割分担を行うことが重要であると考えられる。昨年度までの研究プロジェクトにおいて、子育て中のバリア、子育て世帯の外出行動、子育てに対する意識、およびそれらの大都市と地方都市による違い等についての理解を深めたが、子育て世帯の多様なライフスタイルを実現し、生活の質を向上させるための都市と交通のあり方、多様な主体間の適切な連携・役割分担、そして子育てに対する人々の理解を醸成するための手法の検討等が、研究課題として残されていると認識している。本研究は、乳幼児・児童を持つ子育て世帯が、地域社会で多様なライフスタイルを選択でき、生活の質の向上に資する都市・交通施策のあり方を、都市、交通、建築、福祉、教育等、幅広い視点から総合的かつ具体的に検討することを目的とする。昨年度までの研究成果を踏まえて、我が国の社会的文化的特性を反映した子育てしやすい都市・交通施策の提案に向けた理論的かつ実践的な研究を行う。

6 月に東北工業大学で開催された第 49 回土木計画学研究発表会において、「子育てしやすいまちづくり」セッションを企画し、研究会メンバー以外の参加者を交えて、子育て世帯の生活の質向上に資する都市・交通施策に関して多様な視点から議論を行った。また、計 3 回の研究会を開催し、国交省、地方自治体、その他のオブザーバーの方々にもご参加頂き、子どもを連れずに外出しやすい環境整備の現状、土木計画学研究発表会での研究発表・質疑についての報告、第 5 回女性の交通問題に関する国際会議の報告、大垣市の子育て世代に選ばれる都市戦略会議、子ども連れ外出や子育てに対する意識・理解向上のためのイベントの効果等について、多様な視点から議論を行った。さらに、共働き子育て世帯の家事・育児の役割分担と保育所送迎実態および意識を明らかにするためのアンケート調査を、東京および宇都宮において実施した。

キーワード: 子育て、生活の質、都市・交通施策

Keywords: Child Rearing, Quality of Life, Urban and Transport Policy Measures